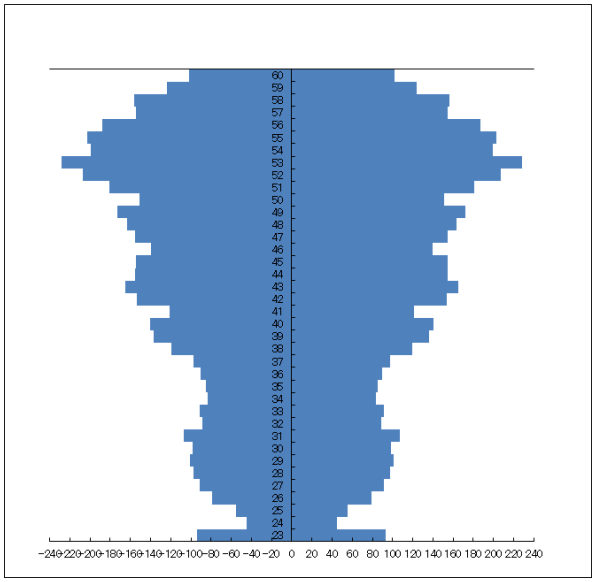
【早川委員提出資料】

大学での学びと教職の関係

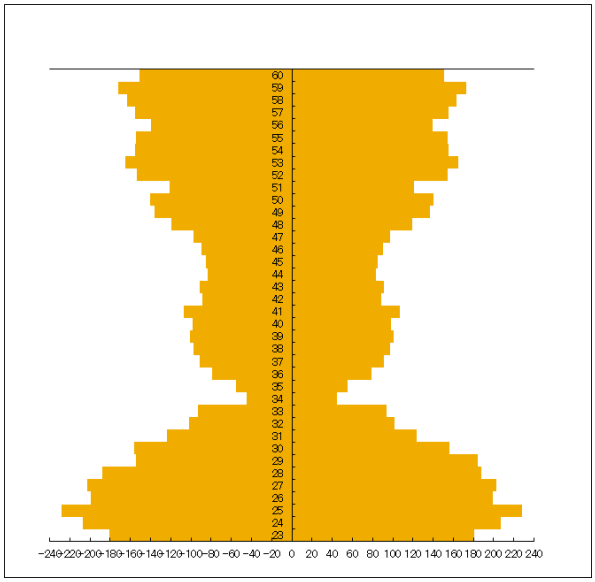
岐阜市教育長
早川三根夫

ワイングラスからサンドグラスへ

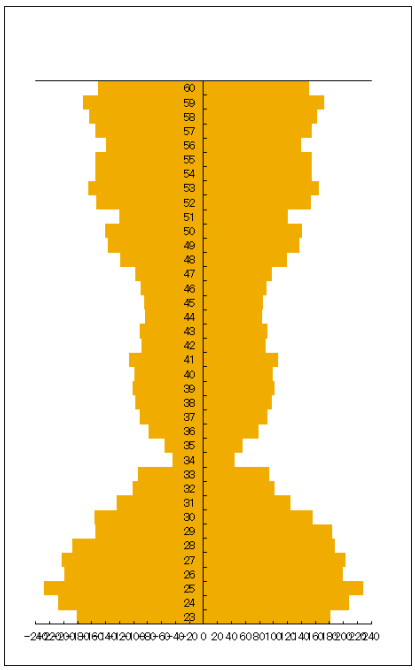
23年度



33年度



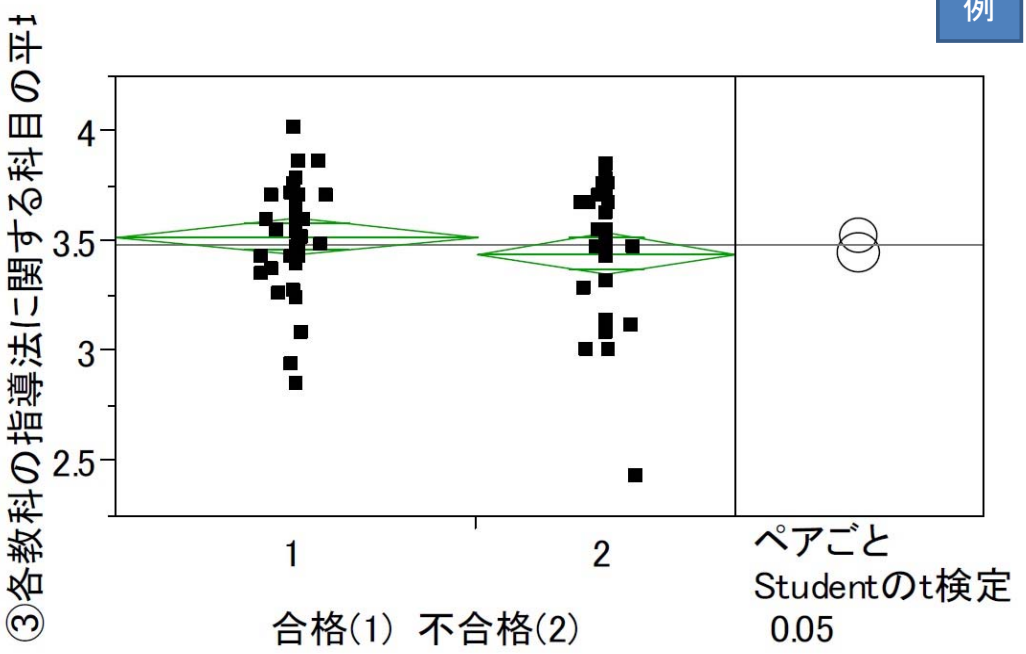
組織の欠陥にしないために



- 退職者の活用
- 校長のマネージメント能力
- 主幹教諭
- 教職大学院
- 中途採用
- 免許の高度化、専門化
- 学部＋修士
- 大学からの速やかな連結

③各教科の指導法に関する科目の平均点には差がない

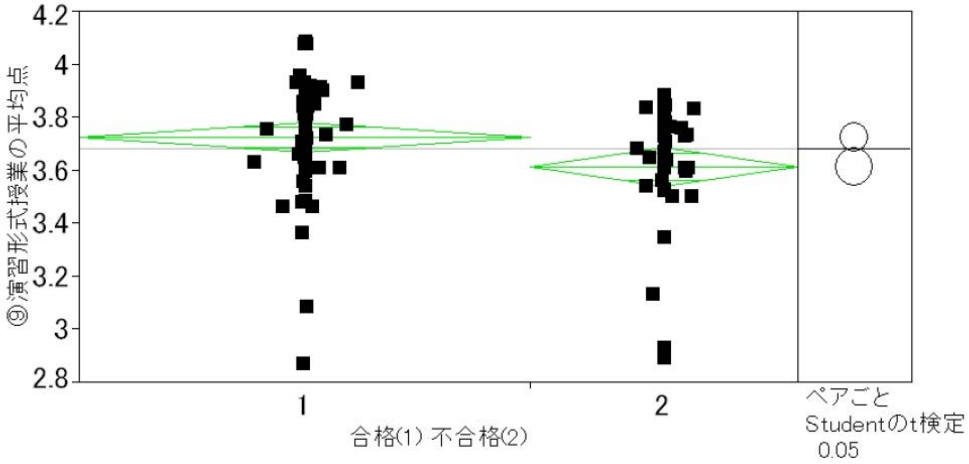
例



21，22年度文部科学省委託　教員の資質能力追跡調査事業　岐阜大学

⑨演習形式授業の平均点には差があり，合格者の方が高得点である

例



t(95)=2.432, p<0.02　有意差有　　効果量(d)=3.63 効果量大

大学の学びと採用の関係

関係なし

- 選択した授業
- 取得単位数
- 少人数授業か大人数授業か
- 大学入学時のセンター試験の成績
- 高校の内申点
- 留学経験

関係あり

- 演習形式の授業の成績
- 教育実習の成績
- サークル活動の関与度
- アルバイトの関与度
- ボランティアの関与度
- 大学主催の採用試験対策講座への関与度
- 教職選択時期

初任者356名、6年目208名、指導主事82名

＜初任者＞20代

	小	中	合計
国語	55	19	74
社会	45	10	55
数学	7	34	41
理科	9	19	28
音楽	17	5	22
美術	1	5	6
体育	7	19	26
技・家	9	8	17
英語	41	25	66
小免	21	0	21
合計	212	144	**356**

＜6年目＞30代

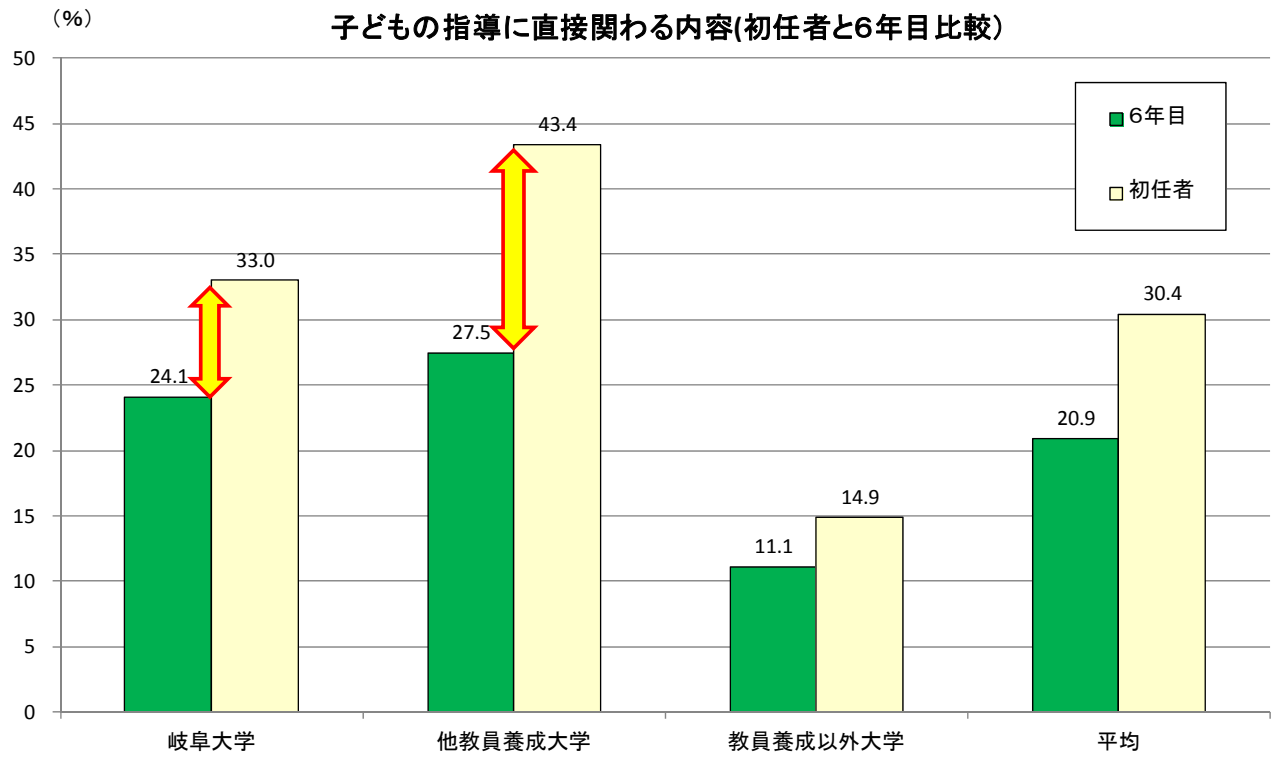
	小	中	合計
国語	23	18	41
社会	24	16	40
数学	21	24	45
理科	6	13	19
音楽	6	6	12
美術	5	2	7
体育	6	3	9
技・家	4	10	14
英語	0	21	21
小免	0	0	0
合計	95	113	**208**

＜指導主事＞40代

	合計
国語	13
社会	7
数学	16
理科	12
音楽	6
美術	4
体育	11
技・家	6
英語	7
小免	0
合計	**82**

初任者と6年目との比較

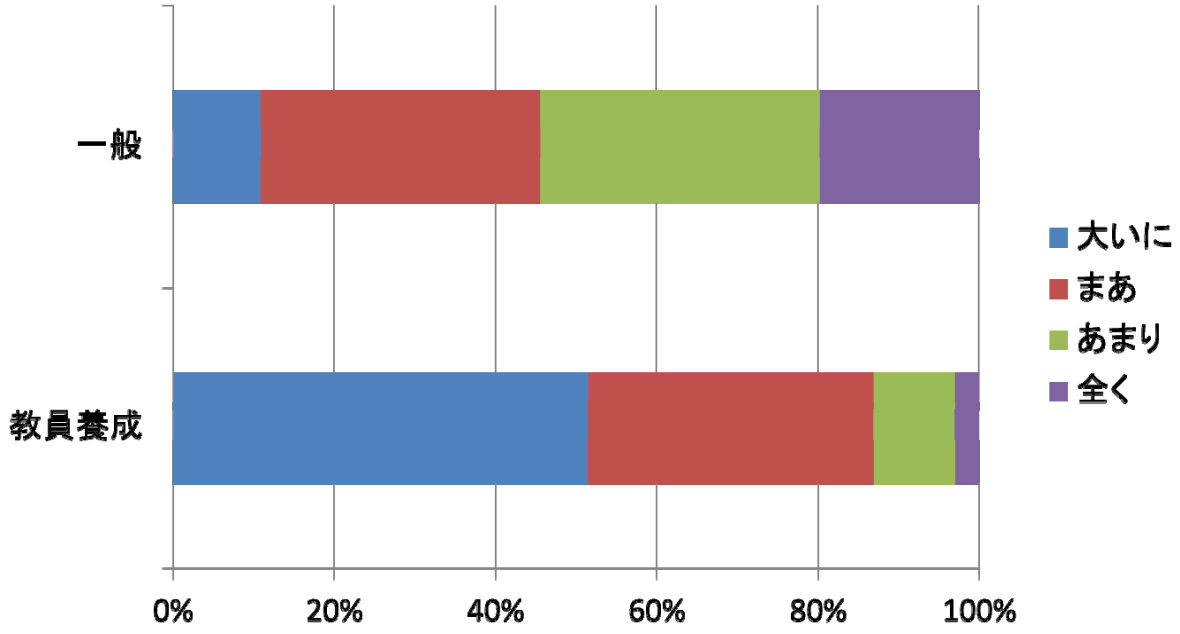
合格者の卒論の内容の変化



（平成23年度8月に行われた初任者研修・6年目研修で実施したアンケート結果より）

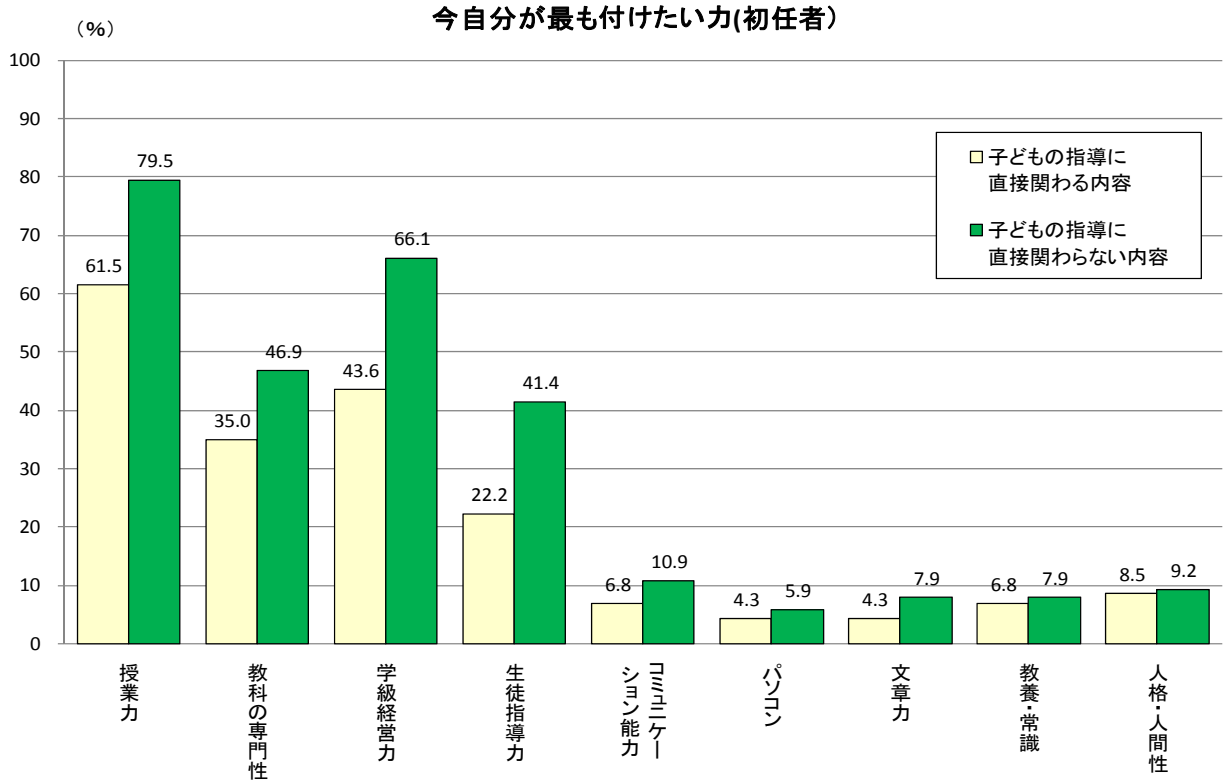
初任者＋6年目

一般大学出身のメリットを感じるか
教員養成出身のメリットを感じるか

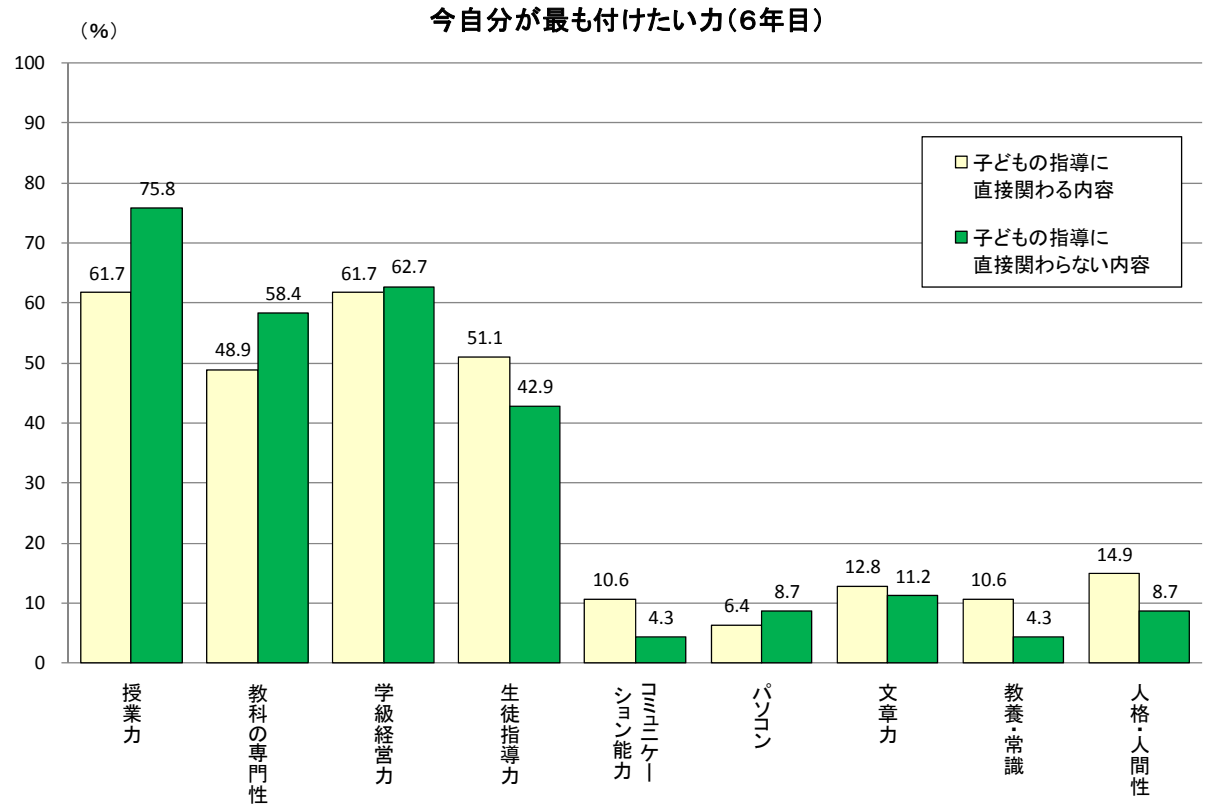


初任者

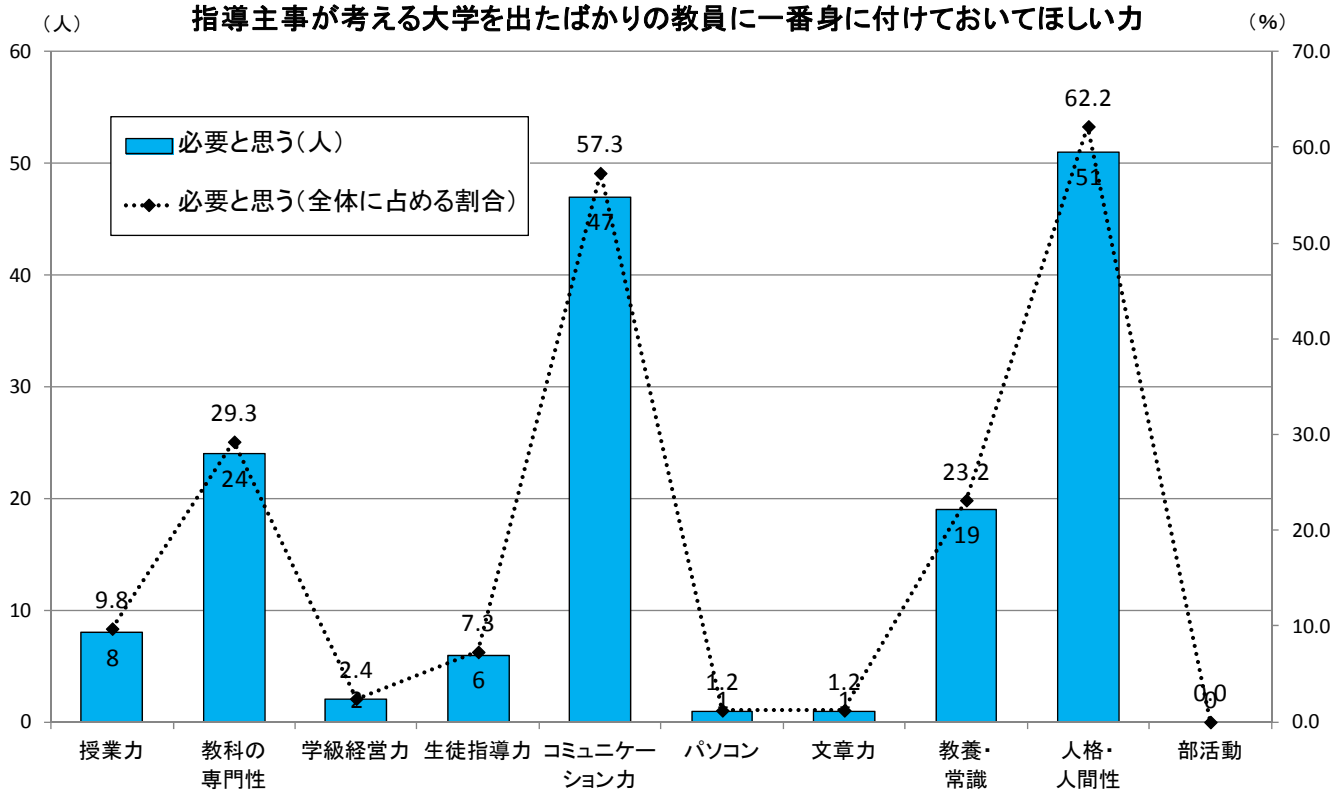
自分が最もつけたい力



6年目　6年たつと、差は解消

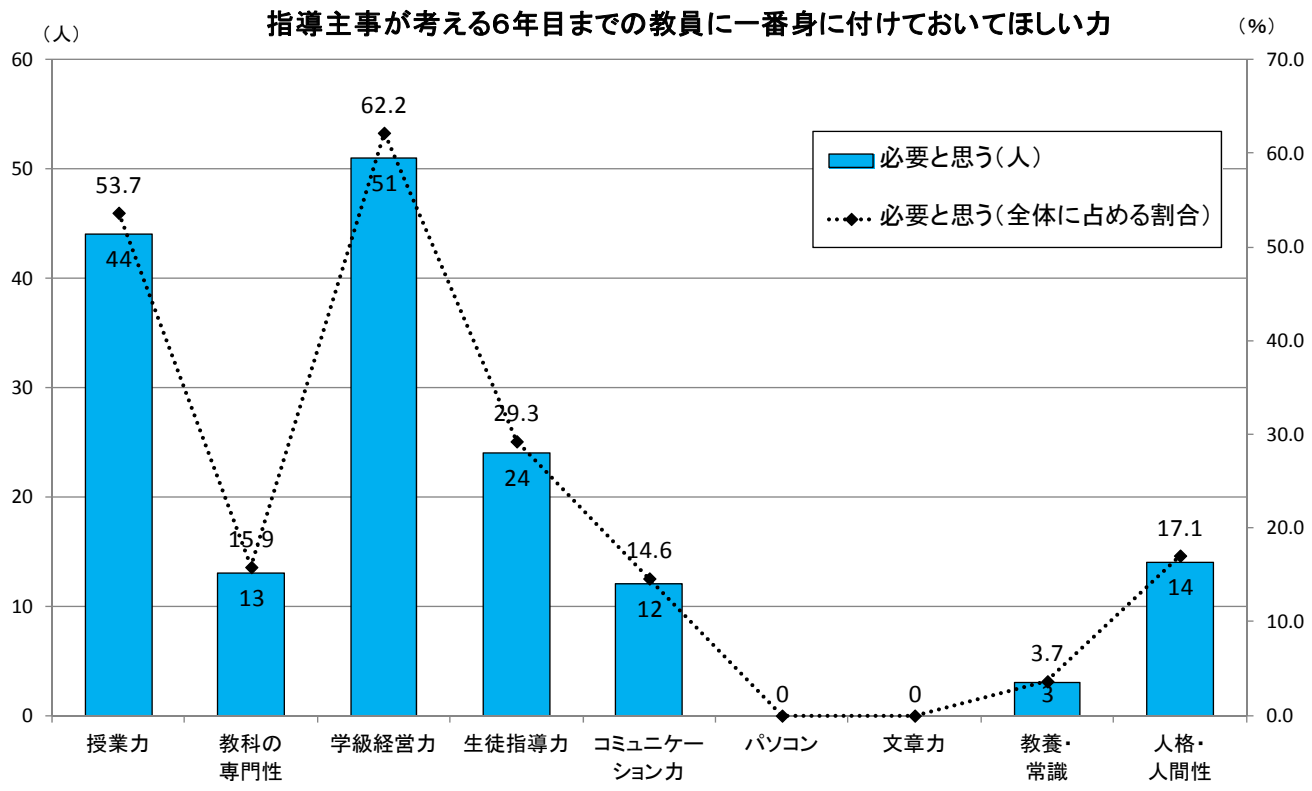


指導主事の目から　吸収できる人間性こそ大事



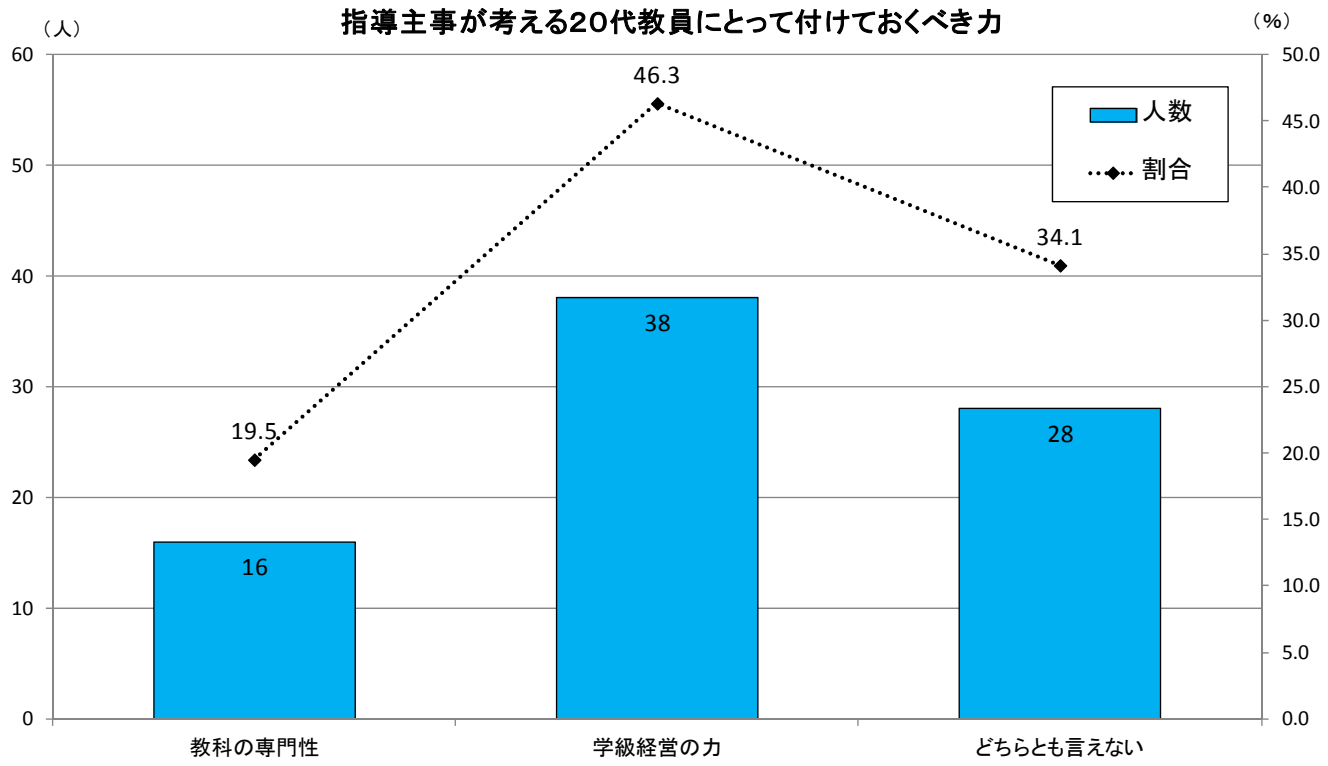
指導主事の目から

6年間で、学級経営や授業力を身につける



指導主事の立場から20代へ

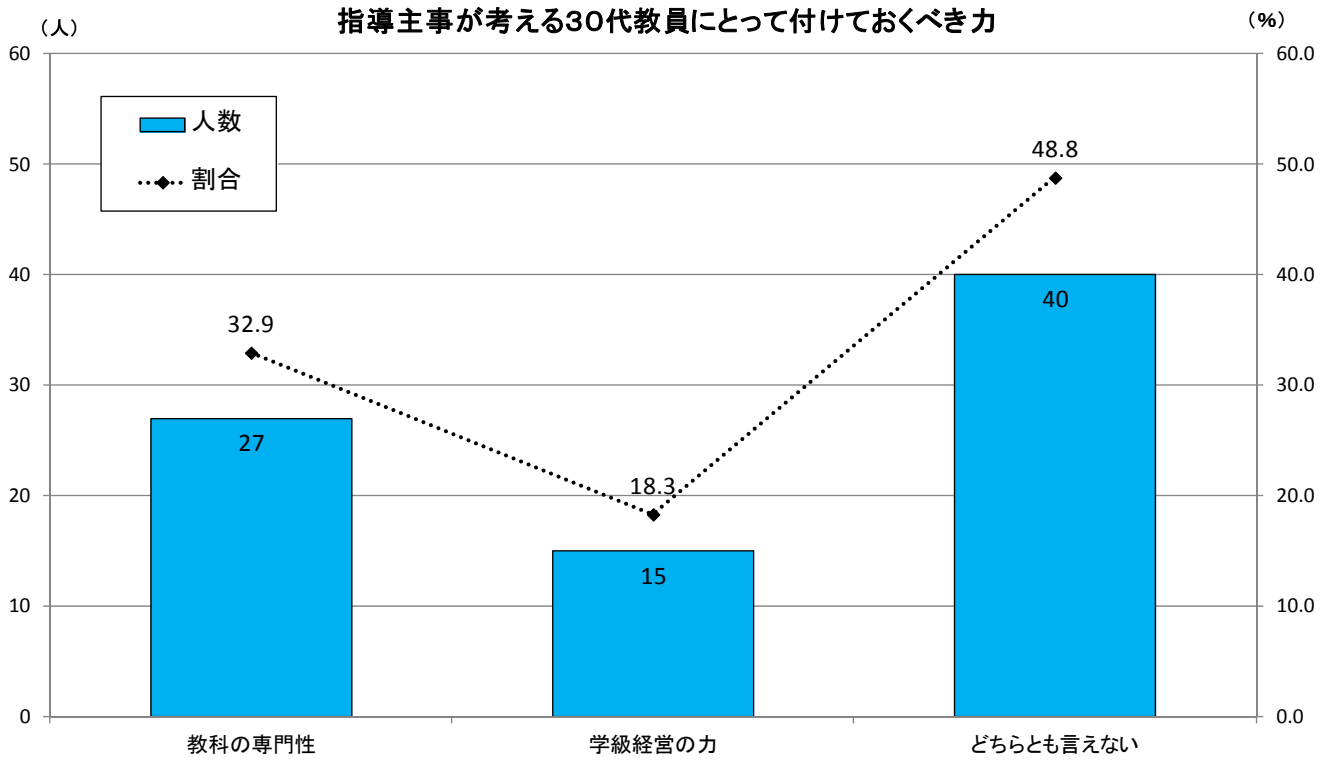
20代は、学級経営の力をつける



（平成23年度9月に各事務所指導主事、総務課、教職員課、学校支援課、特別支援課、スポーツ健康課、社会文化課、研修課に行われたアンケート結果より）

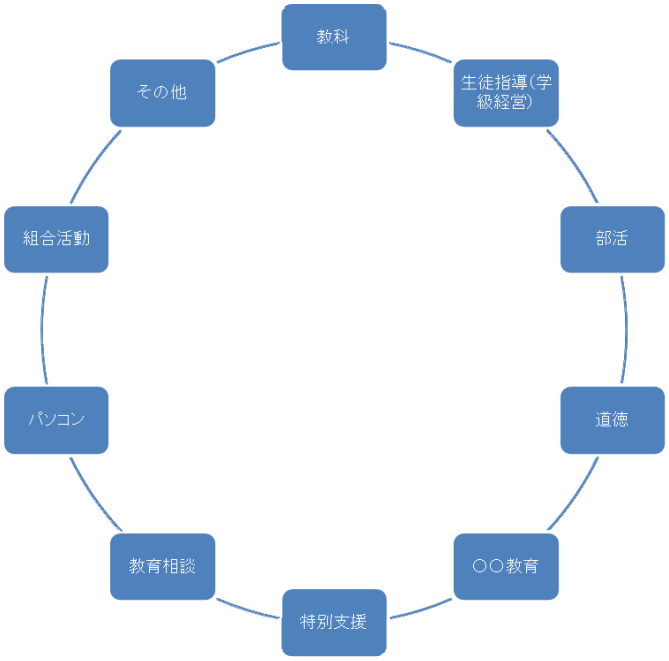
指導主事の立場から30代へ

30代で、教科の専門性を極める

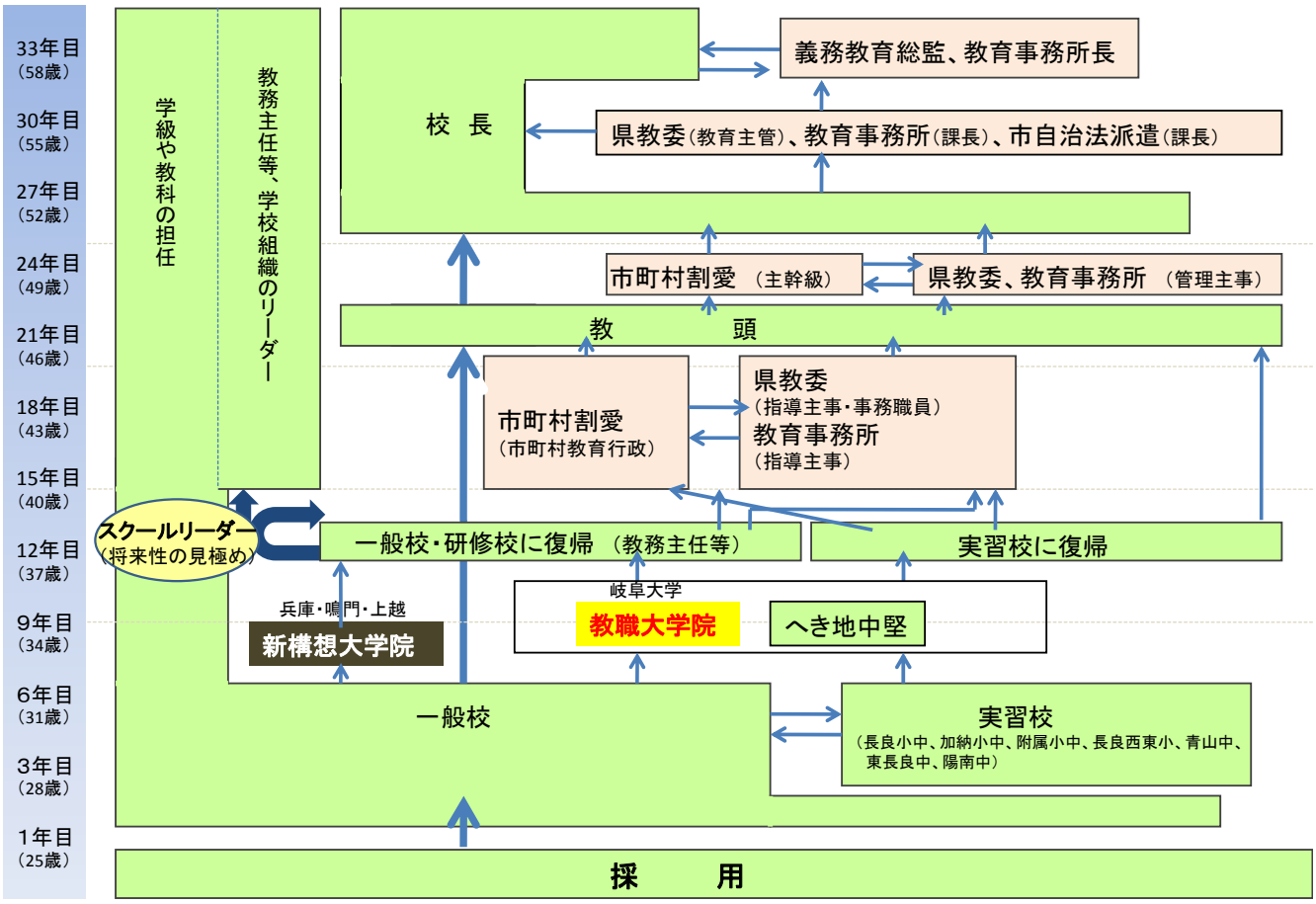


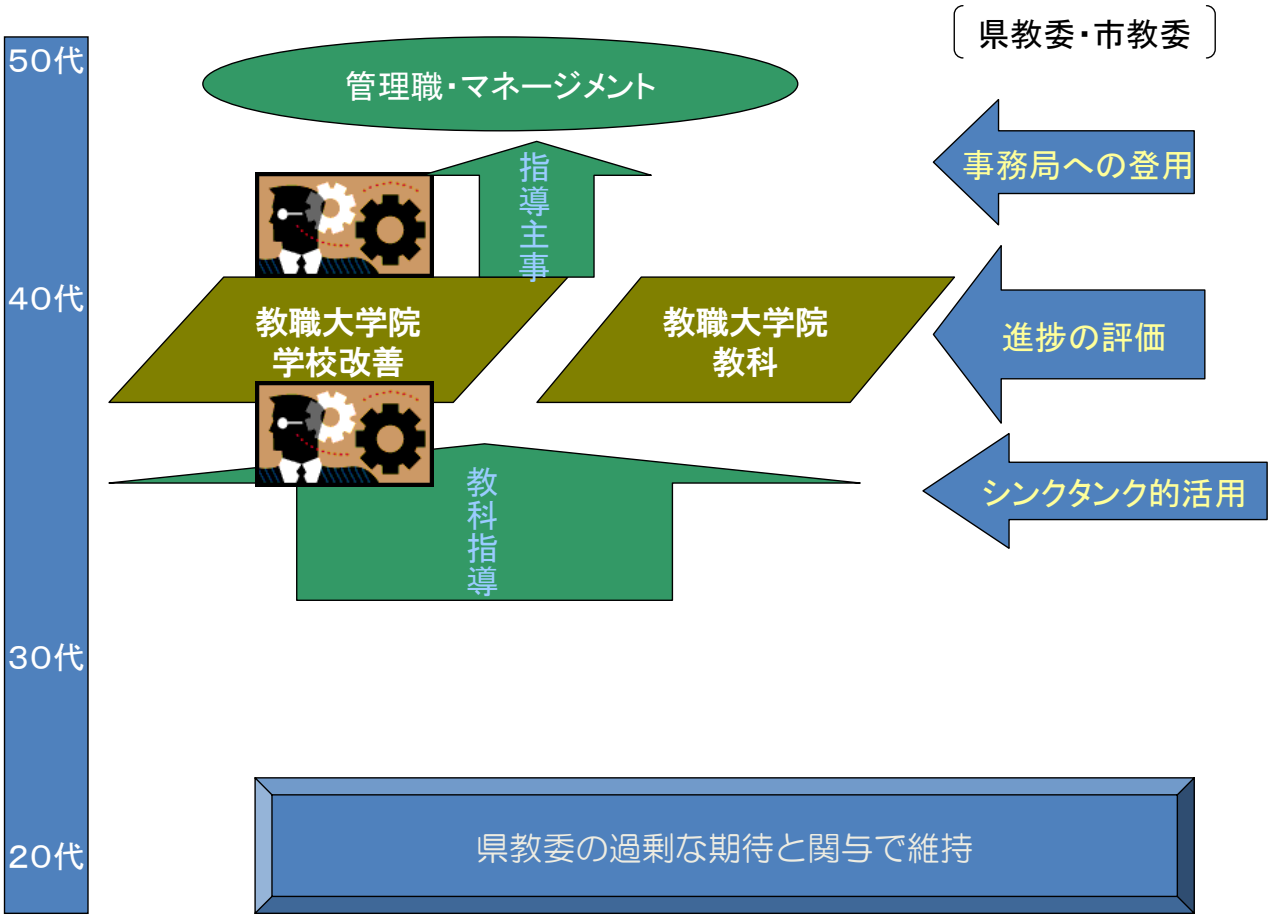
（平成23年度9月に各事務所指導主事、総務課、教職員課、学校支援課、特別支援課、スポーツ健康課、社会文化課、研修課に行われたアンケート結果より）

30代で得意分野が明確になる



教員のライフステージ（小中）

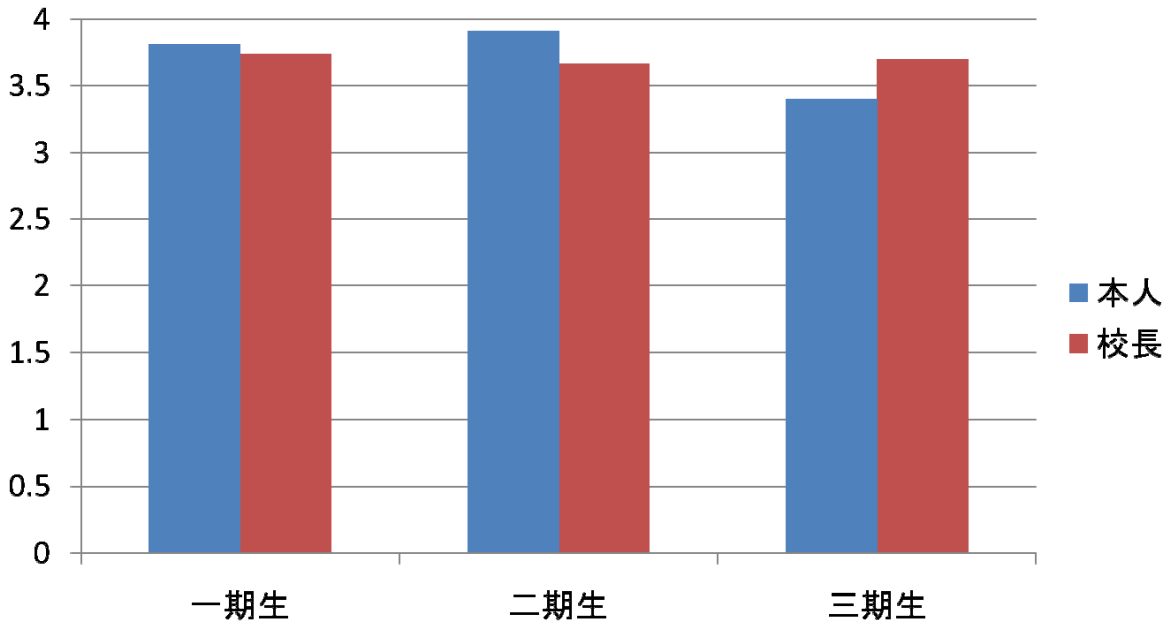




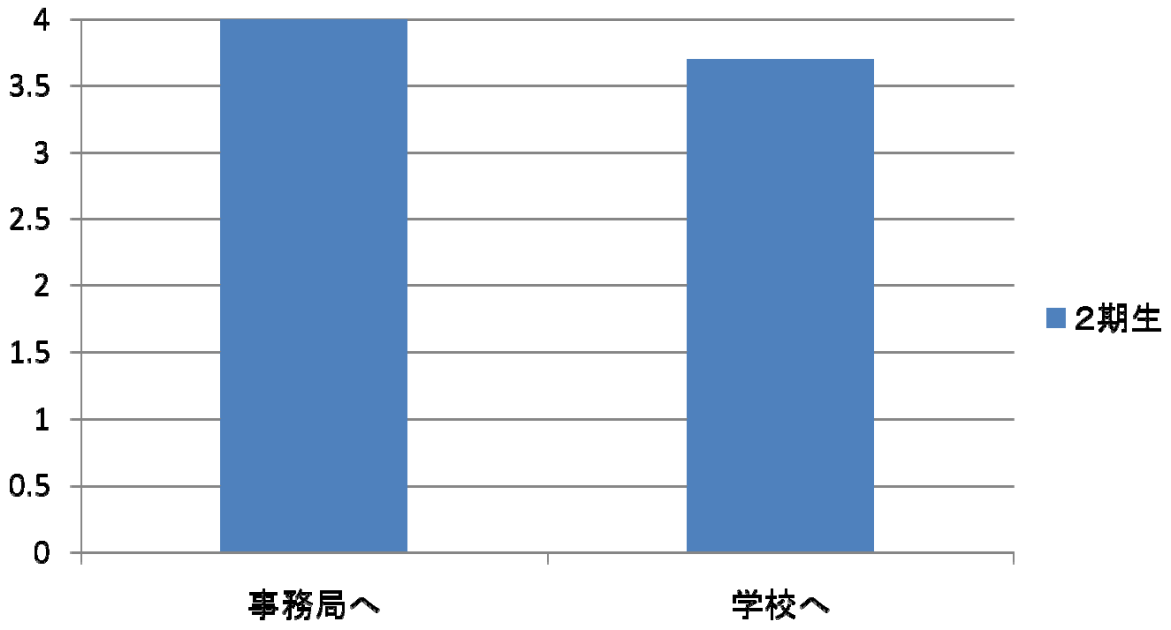
教職大学院修了者に関する内容

- 成果を高く評価するも、個人的成果である。
- 研修課題を事前に市町村と打ち合わせした研究ほど、成果の共有がなされる。
- 一般の教諭は教職大学院の研修制度をほとんど理解していない。
- 研修者に多くの配慮をしているが、微妙なズレが研修者のストレスになる。

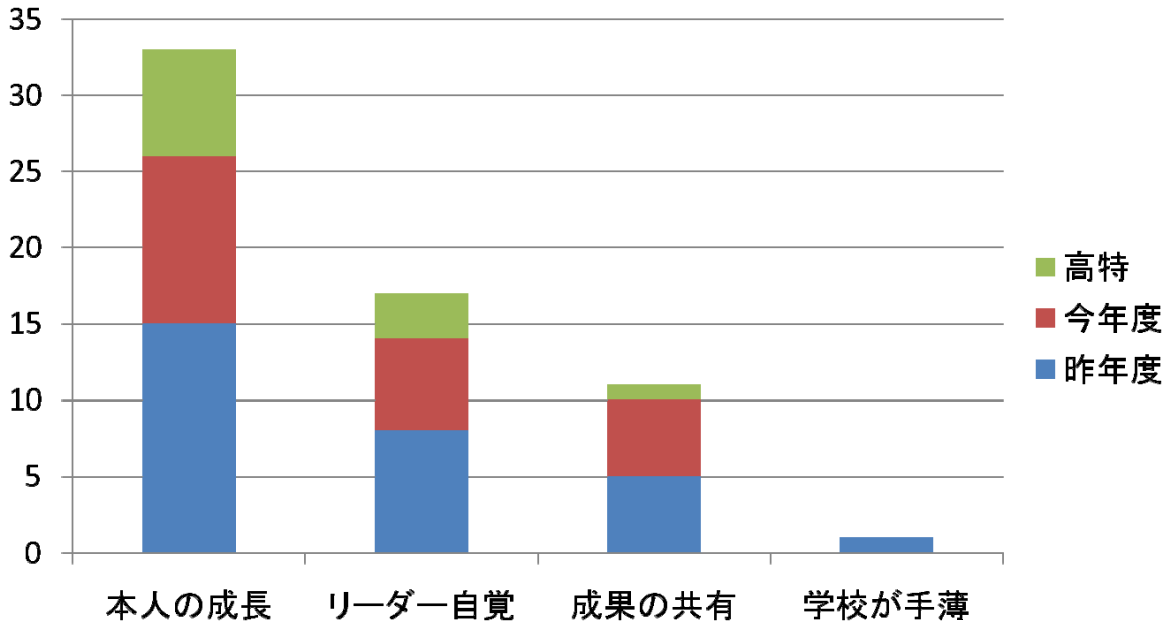
教職大学院へ行ってよかったか（小中）



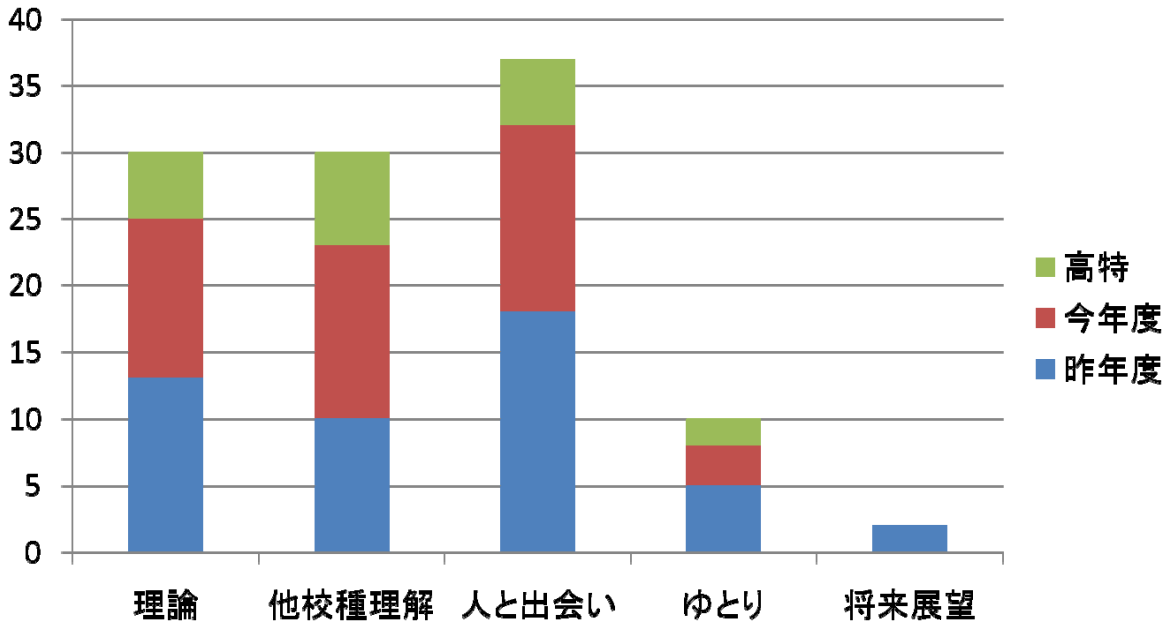
その後のキャリアとの関係



校長の評価（複数回答）

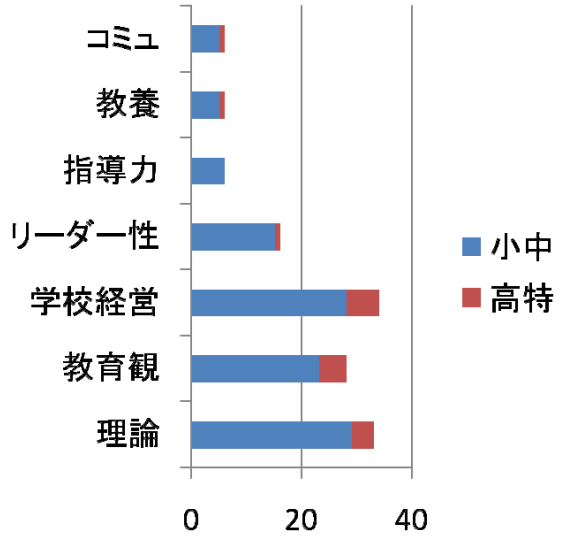


研修を受けてよかった点（本人）

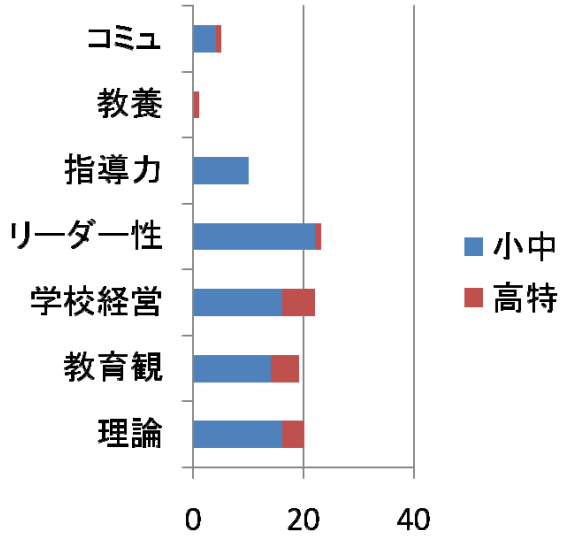


研修前と現在の進歩

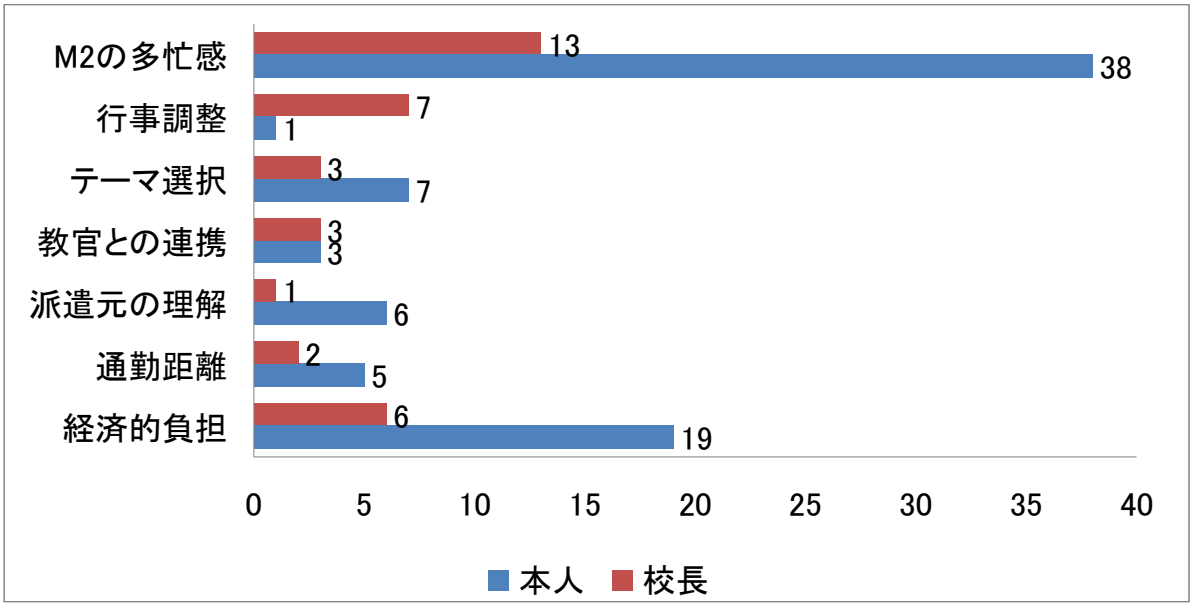
本人の評価



校長の評価

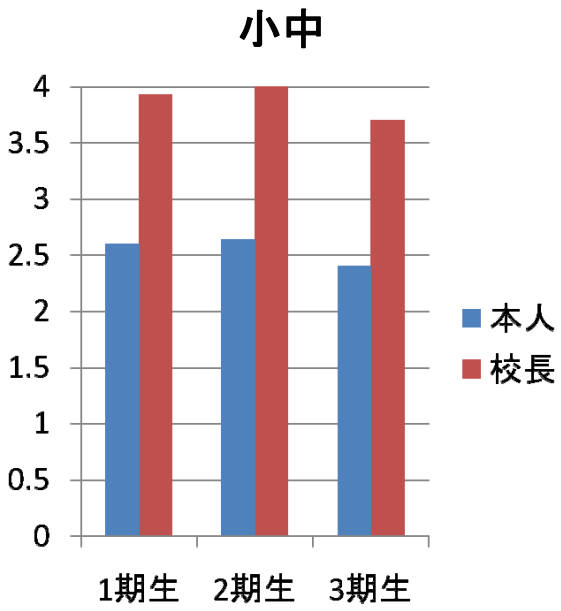


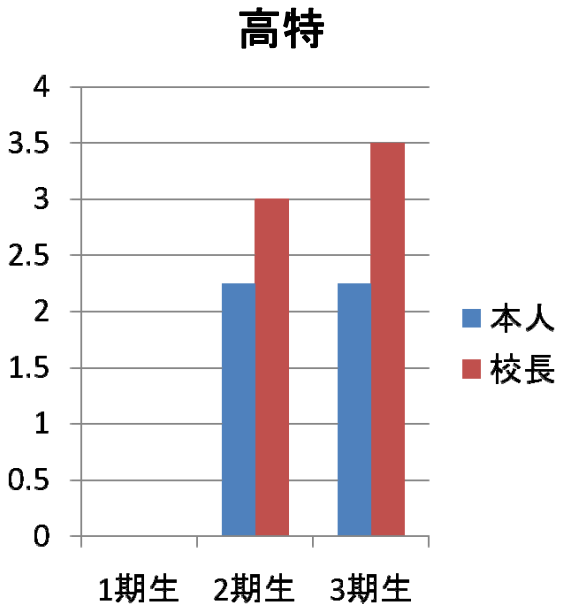
何が困難でしたか？



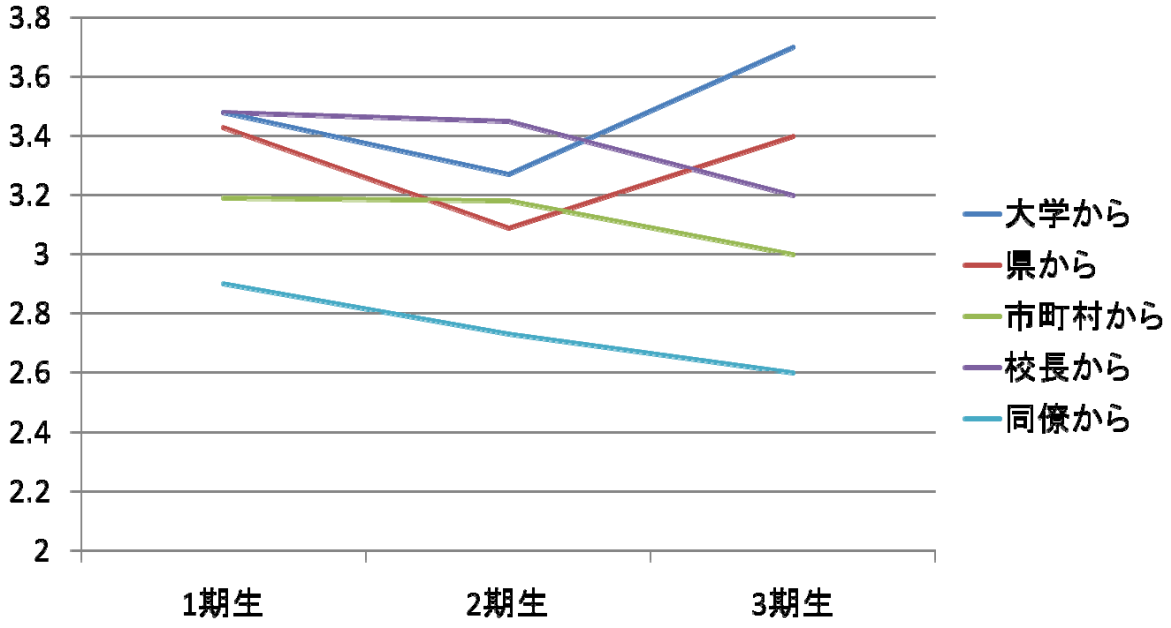
研修等定数の措置が必要

ミドルリーダーとして活躍は？

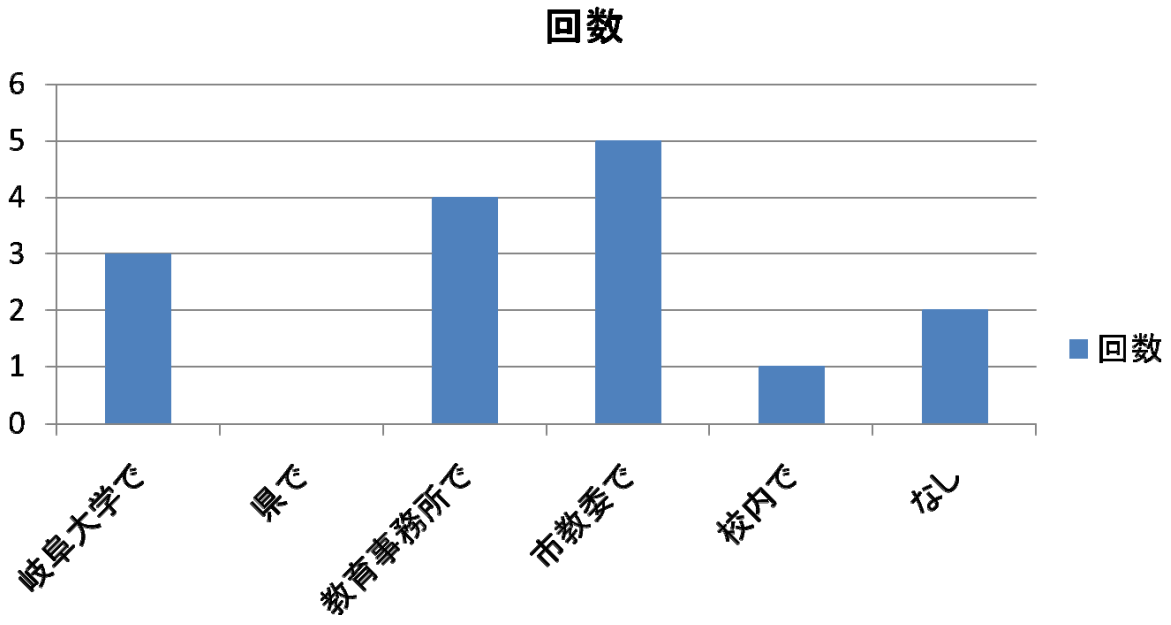




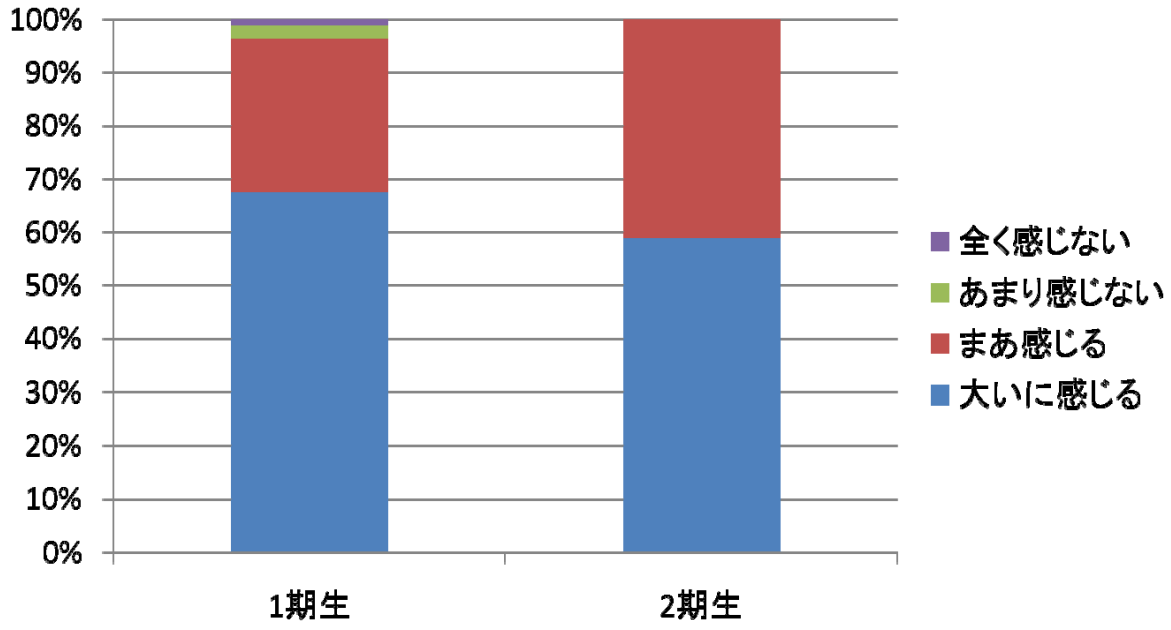
周りから感じる期待度は？（小中）



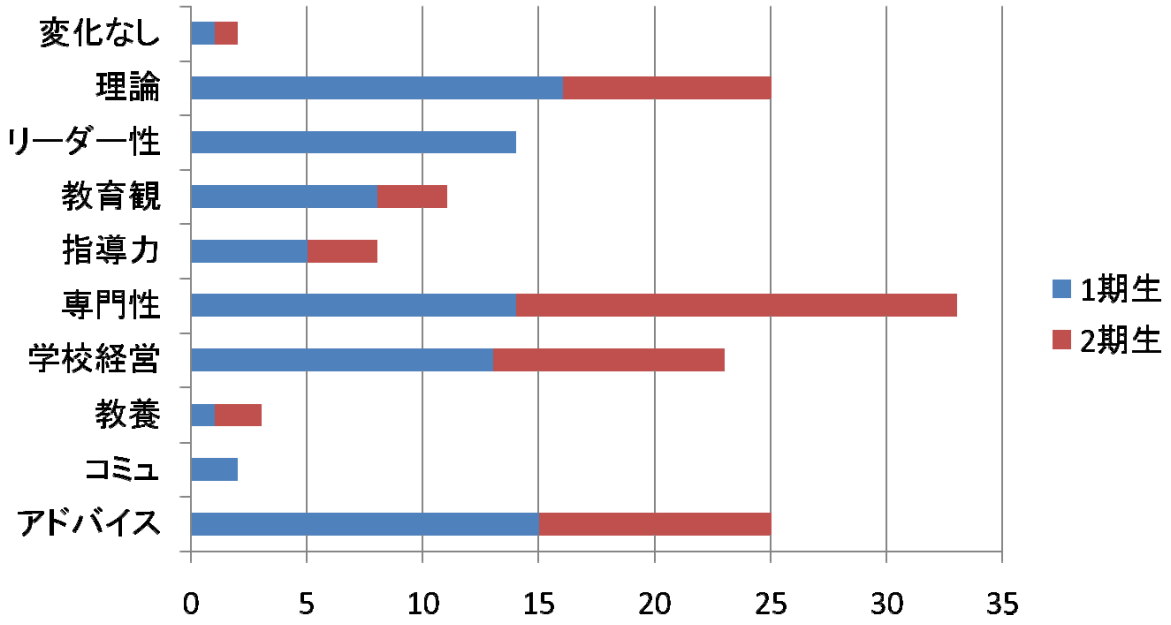
講演をしたか？（２期生）



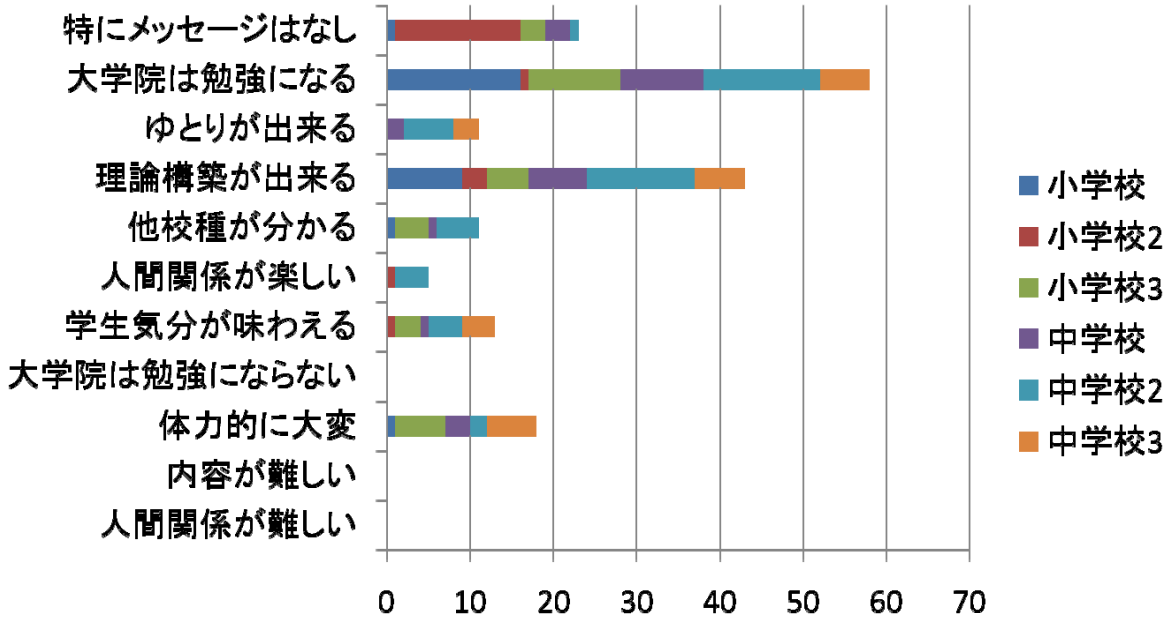
同僚評価；仕事に生きているか（小中）



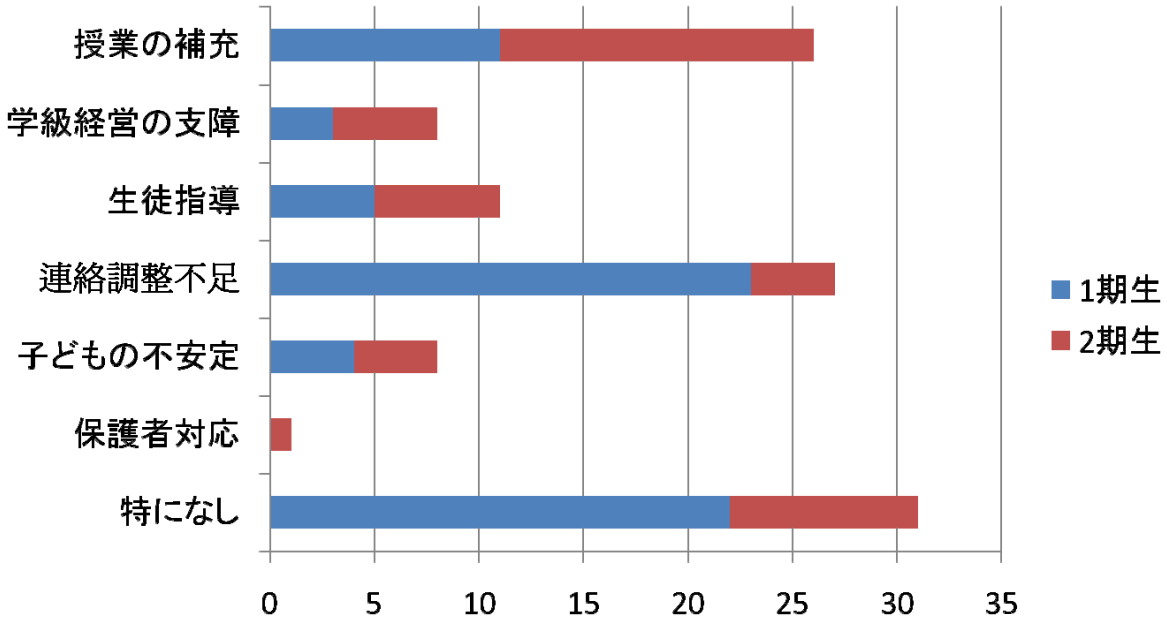
同僚から見て、どんな点で成果を感じるか



本人から同僚へのメッセージ



当該教諭を送り出して どんな点で支障を感じたか



ストレートマスターへの対応

- 採用試験の一部免除
- 名簿登載期間の延長
- 初任者研修の一部免除
- 教授陣の心配と現職の感想

教職大学院からのヒント

- 現職は課題意識が明確であることが学びの充実につながっている。

（OJTでは得られない学び）

- 学生は課題意識を持つことが難しい。
- 学生は全体と部分の関係をよみとれない。
- 今学んでいることが、教職のどこに役立つか伝えてほしい。
- 教育実習で得た疑問点や課題を、卒論にしてほしい。